

巻 頭 言

校長 広瀬 徹

私は、本校に着任する前、新川地区の高校で勤務していました。その学校では、毎年、韓国
の高校と国際交流を行っていて、交流先の海洋高校が所有する実習船で伏木港に入港した、生
徒・教員50名ほどの一行を歓迎したことがあります。その時、お互いの国の言葉や英語を使
い、片言で話しかけながら、コミュニケーションを取り、あっという間に仲良くなっていく兩
国の生徒の様子を見て、大変頼もしく思ったことを覚えています。また、わずか2日間の滞在
でしたが、帰国の日、バスの見送りをする際、涙を流して別れを惜しむこちらの女子生徒と、
その肩をそっと抱きしめる韓国の生徒たちの姿に、何か崇高なものを感じました。

さて、本校では平成6年に創立70周年記念事業の一環として、「海外派遣事業基金」が設
立され、第1回の国際交流派遣を実施し、交流を続けてきたアメリカ合衆国オレゴン州にある
サム・バーロウ高校とは、平成16年に姉妹校提携を結びました。途中、平成29年の第24
回では、先方から6名の団員を本校にお迎えしたこともありましたが、その年を含め、令和元
年の第26回まで、四半世紀以上の期間、交流が継続されてきました。しかし、令和2年の初
頭から、世界的に新型コロナウイルス感染症の感染が広がり、大変残念でしたが、令和2年か
ら4年の3年間、第27回から29回までの派遣事業を中止といたしました。

その後、昨年度末から、国際交流委員会の職員を中心に、国内外の感染者数の状況を考慮し
ながら、本年度・第30回の交流実施に向けて準備を進めてもらいました。ただし、やはり3
年間のブランクは大きく、一度休止していた事業の再開には、担当職員にも様々な苦労があ
りました。しかし、昨年から、国際的な人的交流の規制も緩和されましたので、何とか今回の事
業実現に至ったものです。

本年度は、生徒7名、職員2名、総勢9名の団員派遣となりました。昨年11月6日から1
3日まで、7泊8日の日程で、オレゴン州ポートランドでのホームステイ、サム・バーロウ高
校での生徒間交流などを行ってきました。同じ体験をしながらも、各生徒の関心のポイントや
感じ方は、それぞれに個性があります。この後に綴られる生徒の記録に目を通し、滞在期間は
約1週間ではありましたが、その間の生徒の経験の一端に触れていただければ幸いです。

今後、今回の団員が、この何物にも代えがたい貴重な経験を糧として、人間としてさらに大
きく成長してくれること、並びにこの研修報告書における団員の話に魅了された他の生徒たち
が海外研修に興味を持ち、また来年度以降の参加に意欲を示してくれることを期待いたします。

結びになりますが、本年11月に、本校は創立100周年記念式典の挙行を予定しておりま
す。100年の歴史の中で、30年もの間、継続してきたこの国際交流派遣事業が、今後さら
に充実した研修として発展していくことを祈念するとともに、この事業を支えていただいてお
ります教育振興会、同窓会をはじめとする関係各位、そして、本年度の再開に努めてくださ
った国際交流委員会や引率の先生方に心から感謝申し上げるものです。